

第1節 自然環境

1 位置及び地勢

本市は、九州の南端鹿児島県本土のほぼ中央にあつて、北は姶良市、西は日置市、南は指宿市などと接しています。また、東は鹿児島湾をはさみ、雄大な桜島を含んだ東西32.6km、南北50.9kmの風光明媚な都市です。

市街地は、鹿児島湾に流入する甲突川など6つの二級河川により形成された小平野部にあり、その周辺は、海拔100m～300mの丘陵地帯（シラス台地）となっています。

鹿児島市のシンボルとして知られている桜島（標高1,117m）は、市街地から約4kmの対岸にあり、平成28年は7月まで活発な火山活動が見られましたが、8月以降は活動が静穏化しました。爆発的噴火は47回観測され、29回だった平成20年以来2桁にとどまりました。

桜島火山活動状況

（資料：鹿児島地方気象台、鹿児島県）

年次 1～12月	噴火 (回)	うち 爆発的噴火 (回)	噴煙 (回)	地震 (回)	降灰量 (g/m ²)	
					気象台	市役所
26	656	450	500	4,890	995	1,211
27	1,252	737	995	9,712	546	759
28	153	47	142	1,657	115	423

2 気象

本市の平成28年の気温は、最高気温37.4℃、最低気温-5.3℃であり、年間平均気温19.6℃という温暖な気候に恵まれています。

気象概況

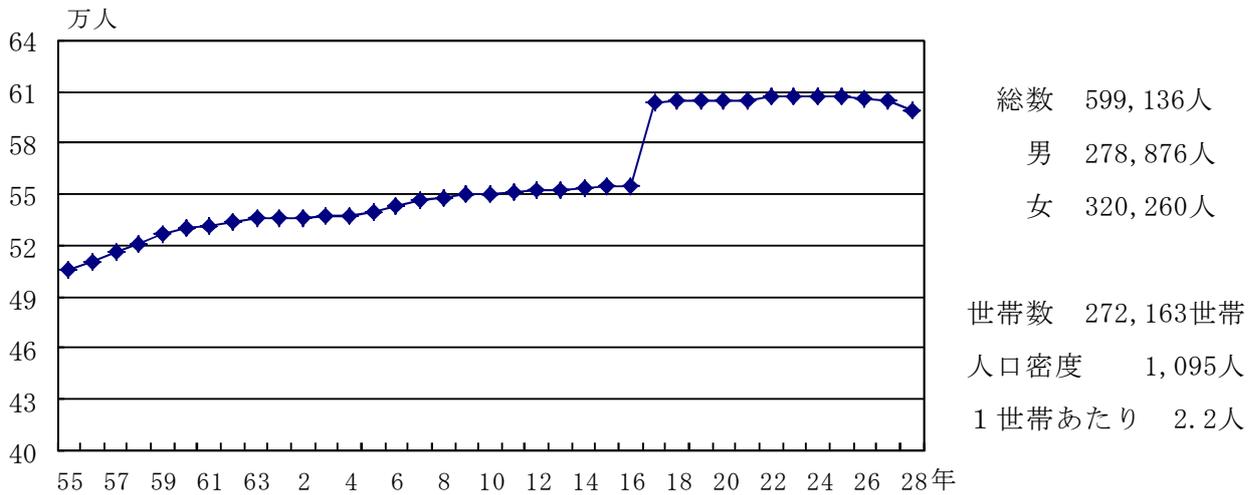
（資料：鹿児島地方気象台）

年次 1～12月	気温 (°C)			平均湿度 (%)	降水量 (mm)	日照時間 (h)
	平均	最高	最低			
26	18.5	35.7	0.5	72	2,834.0	1,872.3
27	18.8	36.1	0.6	74	3,663.5	1,778.2
28	19.6	37.4	-5.3	75	3,285.5	1,945.7

第2節 社会環境

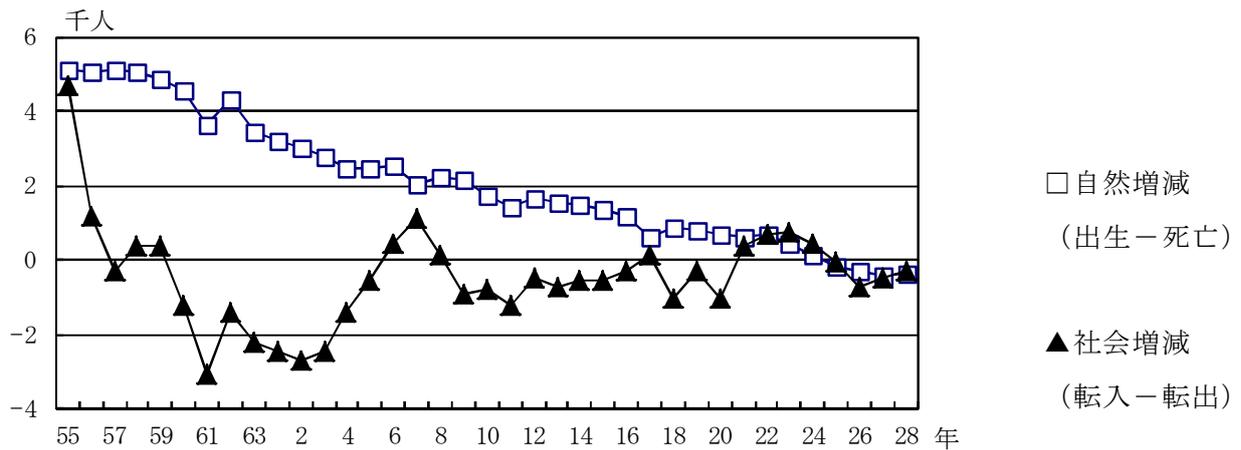
1 人口及び世帯数

本市の平成28年10月1日現在の推計人口は、599,136人で、世帯数は272,163世帯、人口密度は1km²当たり1,095人となっています（図1-1）。



（備考） 各年10月1日現在推計人口 国勢調査年次については国勢調査結果人口

図1-1 人口の推移 （資料：総務省統計局、市民課、総務課）



（備考） 各年1月1日～12月31日現在 平成16年10月までは旧鹿児島市の数値

図1-2 人口動態の推移 （資料：市民課）

2 産業

本市は、商業・サービス業を中心に発展してきており、南九州における産業活動の拠点都市として重要な役割を担っています。

平成26年経済センサス（平成27年11月30日公表）によると、本市の産業別事業所数は卸売・小売業がトップを占め、続いて宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉、生活関連サービス業・娯楽業、建設業の順になっています。

産業別事業所数及び従業者数

（資料：総務省統計局、経済センサス）

	事業所数	従業者数
農業	69	388
林業	15	149
漁業	14	167
鉱業・採石業・砂利採取業	7	50
建設業	2,369	19,388
製造業	1,271	17,374
電気・ガス・熱供給・水道業	36	1,703
情報通信業	266	4,839
運輸業・郵便業	758	17,259
卸売・小売業	8,030	70,275
金融・保険業	575	8,411
不動産業・物品賃貸業	1,810	6,715
学術研究・専門・技術サービス業	1,441	9,171
宿泊業・飲食サービス業	3,722	29,008
生活関連サービス業・娯楽業	2,525	12,427
教育・学習支援業	1,087	18,040
医療・福祉	2,629	51,226
複合サービス事業	175	2,855
サービス業（他に分類されないもの）	1,862	19,877
全産業（公務を除く）	28,661	289,322

3 交通の状況

本市の幹線道路は、国道3号、10号、225号、226号などの主要幹線道路と、これらを南北に連絡する唐湊通線、鴨池高見馬場線、東西に走る鹿児島中央停車場線、ナポリ通線、中洲通線などの幹線道路によって全体の骨格を形成しています。

高速道路網は、九州縦貫自動車道が北九州市～鹿児島市間で全線開通しており、南九州西回り自動車道や東九州自動車道も整備されつつあります。また、南は指宿スカイラインと接続しています。本市の自動車台数は、ここ数年46万台を上回る水準で推移し（図1-3）、地球温暖化への影響が懸念されます。

鉄道は、鹿児島中央駅から指宿枕崎線が、また、鹿児島駅から鹿児島本線、日豊本線がのびており、平成23年3月に九州新幹線が博多まで全線開業しました。

海上交通は、鹿児島港が桜島・大隅方面への湾内航路、奄美方面や種子屋久及び沖縄への長距離航路の拠点となっています。

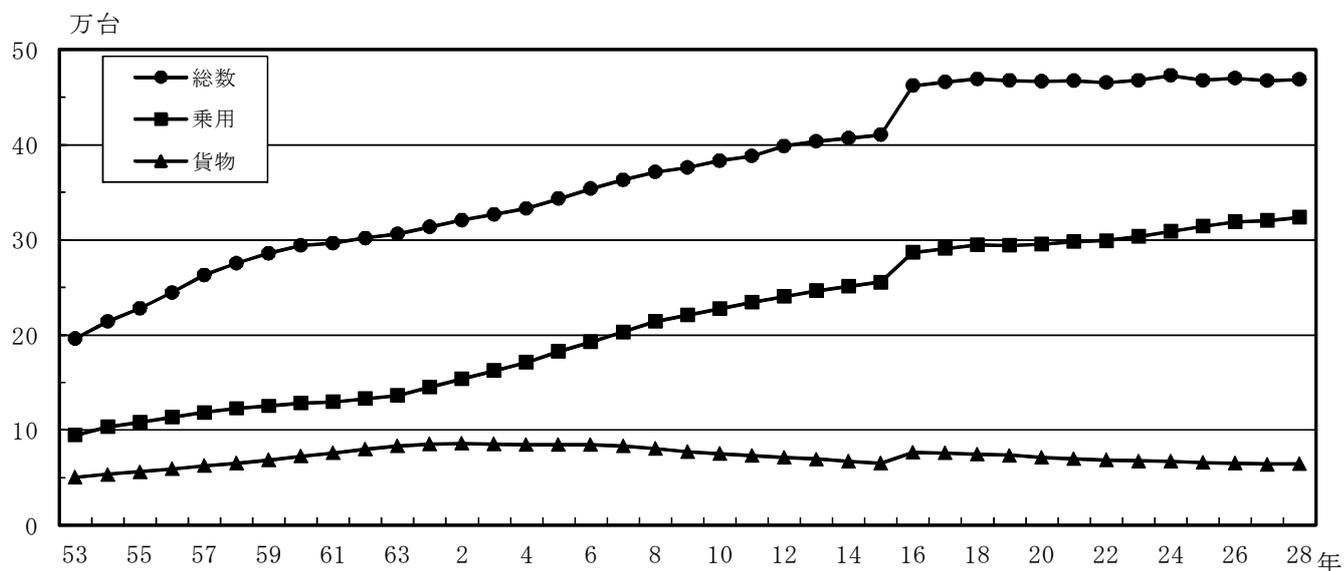


図1-3 自動車登録台数の推移 (資料: 鹿児島運輸支局、市民税課 平成29年3月末)

車種別登録自動車台数 (資料: 鹿児島運輸支局、市民税課 平成29年3月末)

(単位: 台)

総数	貨物用	乗合用	乗用	特種(殊)車	二輪車	原付
469,444	64,674	1,574	323,333	12,191	16,238	51,434

4 土地利用

鹿児島市域面積の約75%は都市計画法に基づく都市計画区域に指定されています。市街化区域は全市域面積の21.8%、市街化調整区域は53.6%です。

都市計画用途地域の状況

(資料：都市計画課 平成29年3月末)

	面積 (ha)	割合 (%)
【線引き都市計画区域】	【 29,021 】	【 75.4 】
市街化区域 (用途地域)	8,405	21.8
市街化調整区域	20,616	53.6
【非線引き都市計画区域】	【 9,466 】	【 24.6 】
用途地域	428	1.1
特定用途制限地域	571	1.5
その他	8,467	22.0
合 計	38,487	100.0

用途地域	面積 (ha)	割合 (%)
第一種低層住居専用区域	約 4,027	45.8
第二種低層住居専用区域	約 142	1.6
第一種中高層住居専用区域	約 408.5	4.6
第二種中高層住居専用区域	約 843.2	9.5
第一種住居地域	約 919	10.4
第二種住居地域	約 101	1.1
準住居地域	約 215.6	2.4
近隣商業地域	約 304.2	3.4
商業地域	約 506	5.7
準工業地域	約 548.3	6.2
工業地域	約 237	2.7
工業専用地域	約 582	6.6
合 計	約 8,833	100.0

5 上水道

本市の水道事業における平成28年度末の給水件数は、302,796件で前年度より2,802件増加し、給水人口は、578,000人で前年度より4,500人減少しています。

年間給水量は64,645,105 m^3 で、前年度より894,011 m^3 (6.1%)の減少となっています。上水の水源別給水割合は、表流水が54.5%、湧水が30.3%、地下水が15.1%となっています。

用途別有収水量では、生活用水量が46,910,246 m^3 で有収水量の78.0%を占めています。

給水人口と給水量

(資料：水道局 平成29年3月末)

給水件数	給水人口 (人)	年間給水量 (m^3)	有収水量 (m^3) (注1)		
			生活用水	都市活動用水	計
302,796	578,000	64,645,105	46,910,246	12,969,890	59,880,136

(注1) 料金徴収の対象となった水量及び他会計等から収入のあった水量

水源別給水量

(資料：水道局 平成29年3月末)

水 源	年間給水量 (m^3)	構成比 (%)
表 流 水	35,222,567	54.5
伏 流 水	48,072	0.1
湧 水	19,630,922	30.3
地 下 水	9,743,544	15.1
合 計	64,645,105	100.0

6 公共下水道

公共下水道は、快適な生活環境を確保するだけでなく、公共用水域の水質保全についても大きな役割を担っています。

平成29年3月末現在の公共下水道の整備状況は、行政区域内人口に対する普及率が79.0%となっています。

下水道の整備状況

(資料：水道局 平成29年3月末)

行政区域内人口 (A)	処理区域		水 洗 化 人 口 (C)	下水道普及率(%) (B/A)	水洗化率(%)	
	面積(ha)	人口(B)			(C/A)	(C/B)
597,375	6,992	472,000	462,900	79.0	77.5	98.1